

【第2分科会】 コ-ディネ-タ- 岸 裕司 ・記 録 者
提 案 者 藤尾 智子（岩手県） 鈴木 博
松村雅子、大塚清美、 清水 浩行
近藤俊子 （静岡県）

《 発 表 》

テ - マ「読書と読み聞かせの具体的な事例を通して」

1 紫波町図書ネットと図書支援グル- プほん太ネット

提案者 岩手県紫波町教育委員会 藤尾智子

(1) 公民館図書室と学校図書室の一本化

- ・紫波町は現在人口約34,000人、町内に公立図書館がない。
- ・平成12年10月1日より、教育委員会事務局が中心となり紫波町図書ネット事業が開催
『紫波町図書ネット事業の内容』

公民館図書と町内14校（小11校、中3校）が図書デ- タを共有し、町全体の図書10万冊（学校6万冊・公民館図書室4万冊）が利用可能となる。

蔵書デ- タをインタ- ネットで一般公開

学校図書室を一般に公立図書館として開放、パソコンの無料使用や本の貸出しを行う。

学校図書室とパソコンを一般開放し、地域のメディアセンタ- としての学校開放を目指すデ- タ管理と図書運営に一般ボランティアの参加。

(2) それぞれのメリット

学校教育の立場から

週5日制による学校財産の有効利用
総合学習における調べ学習の効率的運用
図書室が子ども達にとって居心地のいい場所
学校の先生にゆとりができ、図書室が充実

ボランティアの立場から

活動を通して自分の世界や知識を広める
行政活動とパ- トナ- シップによる社会参加
子どもや学校の直接的支援できる

公立図書室の立場から

どこでもだれでも読書できる環境
紫波町小中学生のすべてが利用者
蔵書数の拡大

社会教育の立場から

学校と地域との融合への窓口
子ども達の居場所が生まれた
社会活動に参加する住民の拡大
町の学習施設の利用拡大と、学習者の拡大

(3) 図書支援グル- プほん太ネット

平成12年、図書デ- タの整備開始。デ- タ入力をしたスタッフを中心にパソコン研修と図書館学の研修を行う。

学校の図書支援活動ボランティアを修了生から募集した。 —— ニほん太ネットニと命名
ほん太ネットの活動内容

- ・学校図書室に週2回読書指導員として、図書デ- タ管理や図書室の運営補助、各校との連絡を行う。
- ・土曜日の午後町内3校を開放し、図書とパソコンの管理運営を行う。

図書支援グル- プ

- ・いい本選ぶ会、図書館を考える会、図書ボランティア講座、人気作家フェア等

(4) まとめ

- ・居心地がよくなった。
- ・将来は全校が自由に使えるようにしたい。（デ- タ入力）
- ・町の図書予算が4万円では恥ずかしい。

2 「読み聞かせボランティアと学社融合」

提案者 富士宮市読み聞かせ推進サポ-タ- 松村 雅子

(1) 読み聞かせボランティアのつどいについて

- ・富士宮市では、平成元年に現在の図書館が完成、この頃活動グル-プが交流会をもつ。
- ・当時、小学校には読み聞かせのグル-プ(会)があった。
- ・各グル-プの代表が集まって代表者を結成する。

読書の留意点として、

- ・本来読書は家庭で行うべきであるが、低学年において本離れが生ずるので、この大事な時期を逃がさないためにも、学校に出かけ行き集団で読むことの大切を確認する。
- ・本質的にいい本を届けることが大切である。
- ・読み手が子ども達の前で読むと、子ども達はそれぞれ自分と友達のちがい(感想等)が分かって、遊びが共通化できる。 —— 集団の場で読むことの長所 ——
- ・平成12年度(2,000年)にリストをつくる。 —— ネットワ-ク化 ——

おはなしを語ろう

- ・絵本 —— 絵を見て
- ・おはなし —— 語り手 —— すごくおもしろい。イメ-ジ化できる。

いい本は

- ・子ども達がよく聞いてくれる。児童本からさらに一層(物語)を進める基礎となる。
- ・本を知ることにより、自分のものにすることができる。

「読書と読み聞かせ推進事業」について・・・平成13年度に立ち上げる。

- ・市(生涯学習課)より、私たち3名(松村、大塚、近藤)に声をかけられる。
- ・読書と読み聞かせ推進事業(平成13年度版)の説明をする。

* 公民館図書館コ-ナ-の充実・活用、学校図書館の充実(ボランティア養成講座)
読書体験記づくり・市民読書体験発表会、富士山のまち読み聞かせボランティアのつどい等

学校図書館の充実について

- ・ボランティアとしてお手伝いをする。
- * 富士宮市では、平成14年度より全校に図書館司書教諭を置く予定。

市民読書体験発表会について

- ・平成13年10月27日実施
- ・参加者100名を越し、盛大に行われた。
- ・市(生涯学習課)の協力あり、感謝している。
- ・読書体験記づくり(文集)

読み聞かせボランティアのつどいについて

- ・平成14年1月26、27日に、310名を越す参加者があり盛大に行われる。
(市内 200名 県内 100名 県外 14名)
- ・講師・・・松居 直 氏 (話しの内容が豊富で、参加者から好評だった)
- ・3分科会をもつ。

《話し合い》

デ-タ-ベ-スの発端はいつか。

@公民館のデ-タは週5日制による。

ほん太について *主体的に活動し、土地の人となり、その間に子どもあり

@土地の人(土の人、風の人) *いやだ=風土が生まれた

地元 よそから(嫁さん)

土曜日の管理について

@公民館の事務室に鍵を置く。(ボランティアが使用する)

学校の図書室は、3階にあるので外から入る。・・・トラブルはどうか? 現在まで無し
具体的はマニュアルが必要(例 平成5年度より校長に責任はなく、教育長に)

ボランティアの報酬はどうか?

@・紫波町の「子どもと読書の会」では、有志による運営で無料。

・授業の中では、自給扱いである。

・富士宮では「読み聞かせ事業」は、平成13年度に予算化された。

・某市では5億円の予算がついて、使い癖が出てしまった。

*双方にメリットが必要。秋津市では、学校に行く人は「楽しい」を前提にしている。浦安市では、仕事の領域を職員とボランティアが共有している。

富士宮市(近藤さん)の「読み聞かせ」紹介

・私は16年続けている。

・家庭文庫を始めた頃は、学校は冷やかな存在だった。 — 信念を持つことが大事 —

・お母さん達は、我が子にいい本を届けて欲しい。

・「今何が大事か、何をしなければならぬか」を、念頭に入れて進める必要がある。

*学校図書と公立図書との違い・・・「強制と自由」

学校での「強制」を反省して、先生は素直になって今後は創造する方向で進めて欲しい。(岸さんの話)

市川市(常田さん)の紹介

・市川市では、コミュニティスクールを26年前からやっている。

・開設当時はボランティアは5人だったが、現在は55人に増えている。

ボランティアの募集を — 「集まりやすいボランティア」 — に置き、それが子育てへとつなげている。

次代への課題は?

@今の仲間達は次第に高齢化していくが、その後継者をどう発掘するか。

・当時、語ってもらった子供たちは母親(父親)となり、若い母親が勉強会を持つことにより継続されて行く。 — 仲間のつながりの発展 —

・児童書を読むまでになり、夢が膨らんだ・・・ハイジ、若草物語等

・我が子と読んできた本が、30冊を越した。

本の寿命は?

・学校図書は一度購入すると、本を修理したりして長持ちさせる。しかし、1冊の本の寿命は、20回転が限度である。 — 図書購入の予算化を図りたい —

新潟県の方の感想

・千葉県生まれ、冬季フォーラムに参加して大変勉強になった。

・昨年、1年生の子供の「読み聞かせボランティア」に応募し実践してきたが、本日の発表を聞いて、活発な活動に驚いている。町内に帰りもっと力を入れていきたい。

・一年生の通う学校で「親子読書」の宿題があり、私が読み手となり、子供に本を読んでいるとその本に感動したのか、私に近寄ってきたのにはびっくりした。

— 子供は本のすばらしさに感動して —

ボランティアは

・ やってやるのではなく、

押しつけるのではなく、広がりの中に

自らが還元していくものである。

